分野別研究組織中間報告（2014 年度）

定住外国人のリテラシーの実態把握と環境改善に関する研究

A Study on the Japanese Literacy of Foreign Residents in Japan and Their Integration into the Local Society

新矢 麻紀子（SHIN'YA Makiko）

報告者は、日本に暮らす移住外国人の日本語学習や日本語習得のあり方、そして彼らへの日本語学習保障に関して研究を続けている。現在の日本では、結婚移住者や移住労働者等の外国人に対して日本語教育が公的に保障されていないため、地域によっては日本語学習を実施する教室等が全く開設されておらず、日本語学習の機会が得られない外国人が少なからず存在する。

報告者は、共同研究者らと共に、2009 年から上記のような日本語教室が存在しない X 地域において漢字教室を開催し、学習支援を行ってきた。外国人にとって日本語の書字言語の習得は困難を極める。口頭言語に比べ、書字言語は自然習得が不可能に近いことから、学習支援の必要性を認識し、文字に特化した日本語教室を開催している。また、2013 年度からは漢字学習支援に加え、外国人のリテラシーの実態を把握する研究を開始し、継続中である。2013 年度は 3 回、2014 年度は 4 回、X 地域を訪問し（各回 3-4 日間）、漢字教室の開催と、その教室に参加する学習者のリテラシーについての調査（読み書き能力の計測、読み書きに関する困難とその対処ストラテジー、学習の状況、等）を行った。さらに、多文化共生社会の実現には外国人の受け入れ側であるホスト社会の実態把握も必要であると考え、その調査も実施している。2014 年度には、X 地域の役所、教育委員会、社会福祉協議会、マイノリティ支援民間団体、CATV、地元市民ボランティア活動グループ、日本人住民に聞き取り調査を行った。調査は 2015 年度も継続中である。

また、リテラシーおよび成人基礎教育に関する先進事例の調査と研究に関する情報収集を目的として、2015 年 3 月にアメリカニュージャージー州とニューヨーク市を訪問し、研究者への聞き取り、Jewish Vocational Service、Make the Road New York をはじめとする移民支援団体 8 か所の見学と聞き取り、リテラシーに関する州の会議の傍聴等を実施した。

その他、年間をとおして、第二言語教育、リテラシー、成人基礎教育関係に関係する研究会等に参加し、情報収集を行った。

研究成果は、「私にとっての日韓識字交流 in 釜山」（日韓識字文解交流実行委員会編『さらなる広がりと充実を―夜間中学生・韓国文解学習者との交流』、2014.9、釜山は 2013 年度に訪問調査）、口頭発表と論文(Proceedings)「国際結婚移住女性の文字学習はなぜ進まないのか-Why Don't Immigrant Women in International Marriages Study Japanese Reading and Writing?-」（共同発表、CAJLE2015 年次大会、2015.8, 2015.9）、口頭発表「国際結婚移住女性の生活・学習環境づくりに向けたアクション・リサーチ―リテラシーを保障／補償するコミュニティをめざして―」（共同発表、日本社会教育学会第 62 回研究大会、2015.9）において報告した。なお、2014 年 4-9 月発行の成果物に関しては 2014 年度所報に掲載されている。